

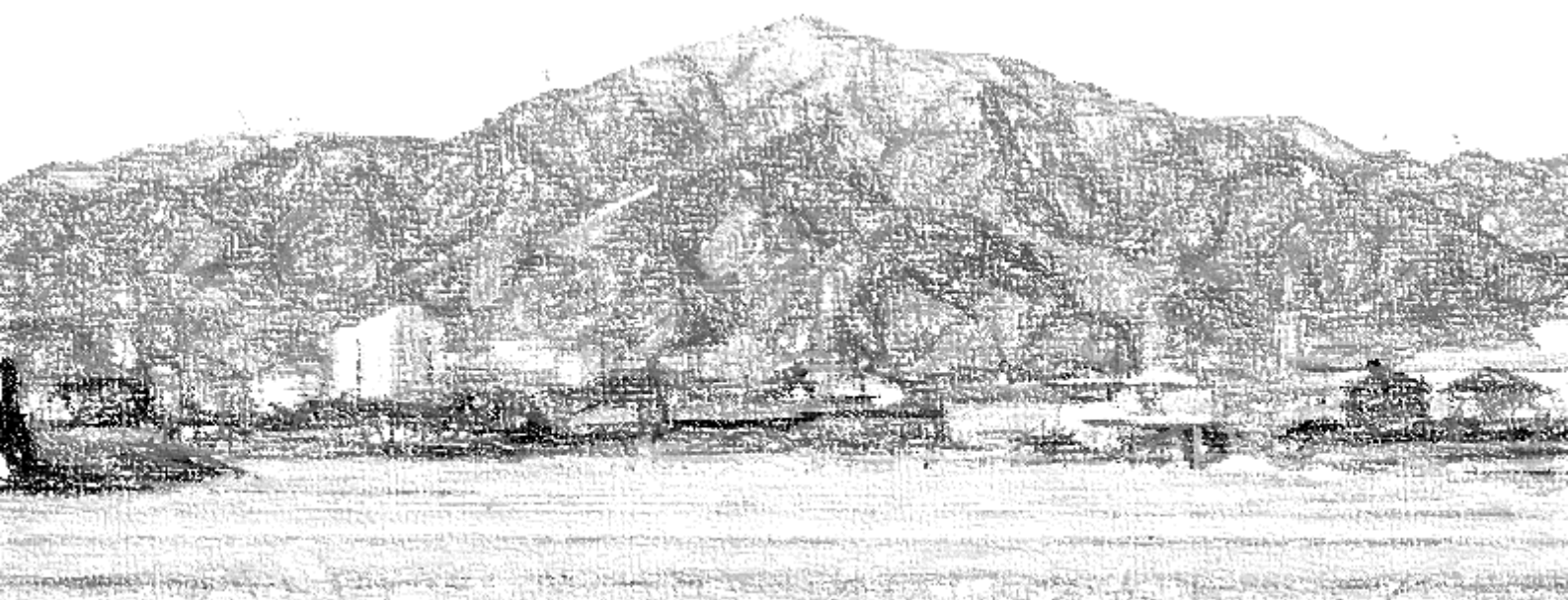
みどり通信

第56号
2026年6月1日

2026

6

令和8 水無月



傘さして

歩いてみたい

雨の中

あじさい通り

相模原



「未知の道」

あきのふみこ

あれから九年

苦難の道

未知の世界

世界のこと

自分のこと

歩き回らず

漸く見えること

人に言えぬこと

判らないこと

楽しみな道



絵かきうた

「生きがい農園」

秋野文子

向日葵の種は大型連休前に撒いた。

今、作業療法士が植えつけてくれた、さつ
ま芋と、じゃが芋が育っている。

さつま芋は蔓を切り分けて植えた。

私も育てたことがある。

じゃが芋は種芋を半分にして、植えつける。

特養ホームの庭の広くないスペースを有効
利用してくれている。

収穫が楽しみだ！

「不登校」

秋野文子

今年、不登校の子どもの数が最多と言う。

私は学校が無い江戸時代に生まれた祖祖母と一緒に暮らしていた。

身の回りのことは自分でやった。

平仮名を書くこと数を数えること、物差しや分銅の秤で目方を計っていた。

寺小屋のような所で裁縫を習ったらしい。

いつも正座して縫い物をしていた。

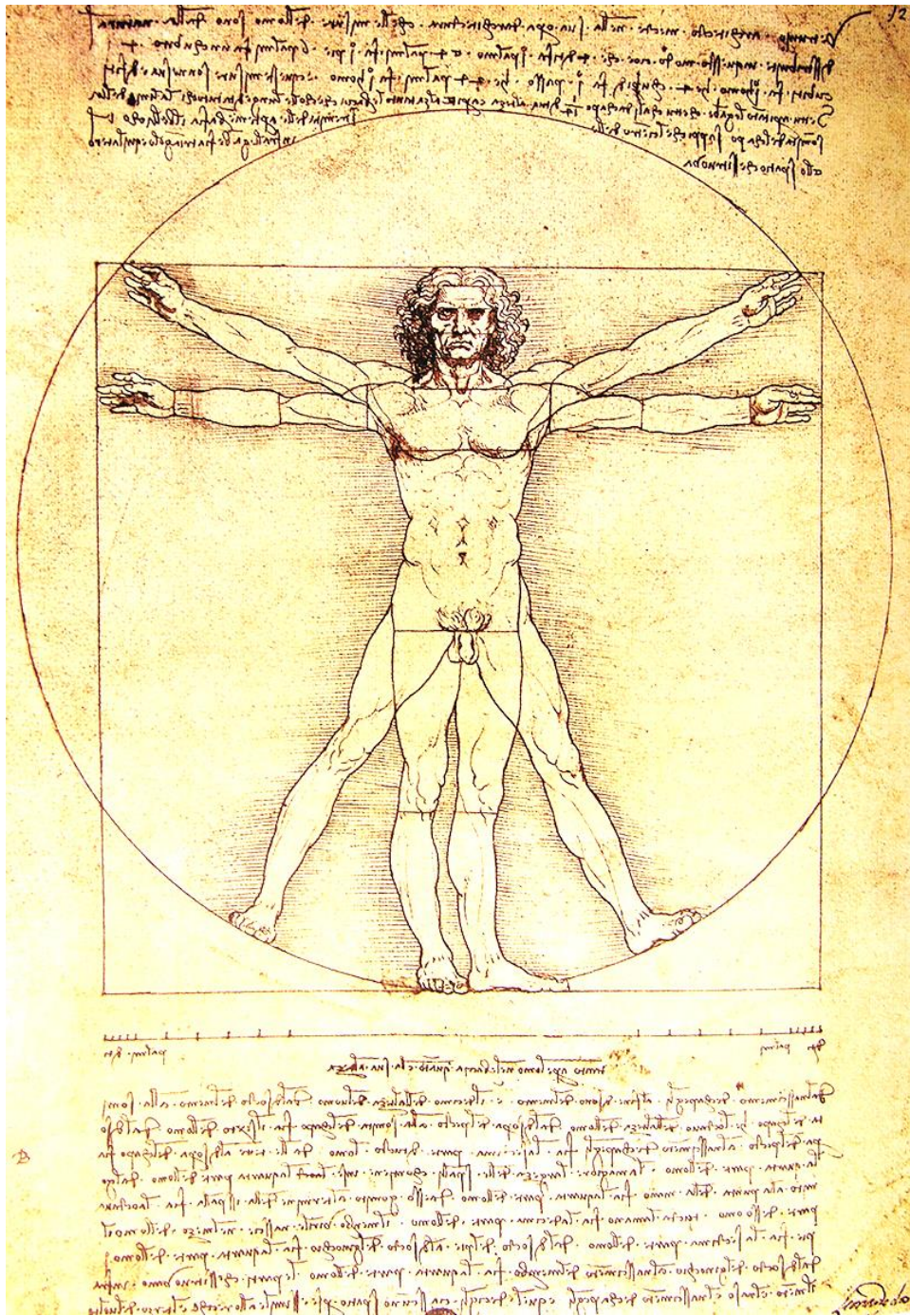
今の子どもは学校や家庭で、生きるすべを身につける機会を与えられているだろうか？

「死んだらどうなるのだろう」 4

ふあ爺

そうは言っても、私の精神は、私の身体にし
っかり根を張っている。そのため、「私」とは、
私の身体全体と同一であるようにも感じる。
私が切りつけられれば、私の意識は痛みを感
じる。私の意識と身体は、一心同体である。私
の意識の存在場所は、私の身体のあるところ
である。

ところで、私の意識には上ってこない私の
臓器も身体にはある。それらは、私の中に居る
他人なのだろうか？





山あじさい

編集後記

梅雨入り前に紫陽花が咲き始めた。
ドクダミの十字の花も好む人はいる。たくさん咲いている。

皆さんの投稿を待っています。
絵、写真、文章、何でも。

秋野

midori2shin@gmail.com

